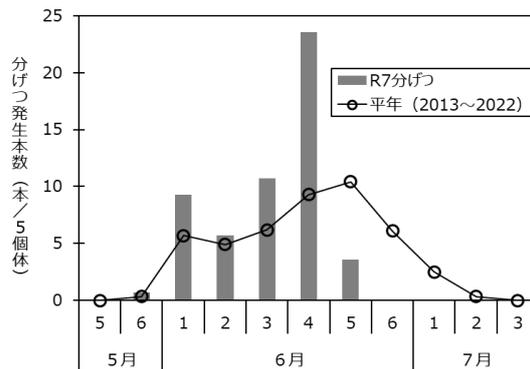


補足資料

1 穂数の決定要因について

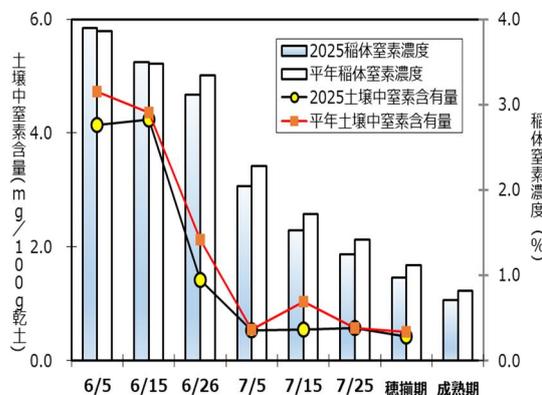
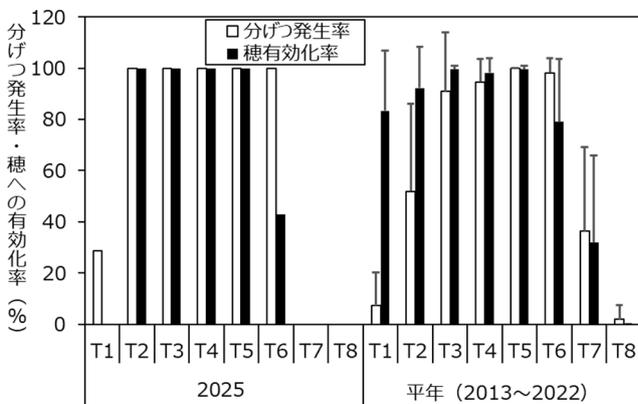
令和7年は、6月第1半旬から6月第4半旬まで分げつの発生は旺盛で、発生数は平年並みから多く推移し、平年より早い6月第5半旬に最高分げつ期に達した。一方、平年には分げつの発生が見られる6月第6、7月第1半旬に分げつの発生が無く、節位別では例年発生が見られる第7節分げつが出現しなかった。これは、6月第2半旬からの高温により、生育ステージ（栄養成長から生殖成長）が早まったこと、高夜温による稲体の消耗や圃場の”わき”による根の活力低下等で稲体窒素濃度が低下（栄養状態不良）したこと等の要因が想定された。

また、分げつ発生数は平年よりやや多かったが、平年では有効化率の高い第6節分げつ等で有効化率が低く穂数が平年を下回った。このことにも、前述の高温による生育ステージの前進及び栄養状態が反映したものと推察された。



補足) 図1 2025年の作況ほ場における茎数の推移 (ひとめぼれ: 5/15 移植)

補足) 図2 2025年の作況ほ場における分げつ発生数の推移 (ひとめぼれ: 5/15 移植)



補足) 図3 2025年および過年次の作況ほにおける節位別分げつ発生・有効化率 (ひとめぼれ: 5/15 頃移植)

補足) 図4 2025年の作況ほ場における稲体窒素濃度および土壌窒素濃度の推移 (ひとめぼれ: 5/15 移植)

補足) 表1 作況ほにおける2025年および平年の分げつ出現数比較 (ひとめぼれ)

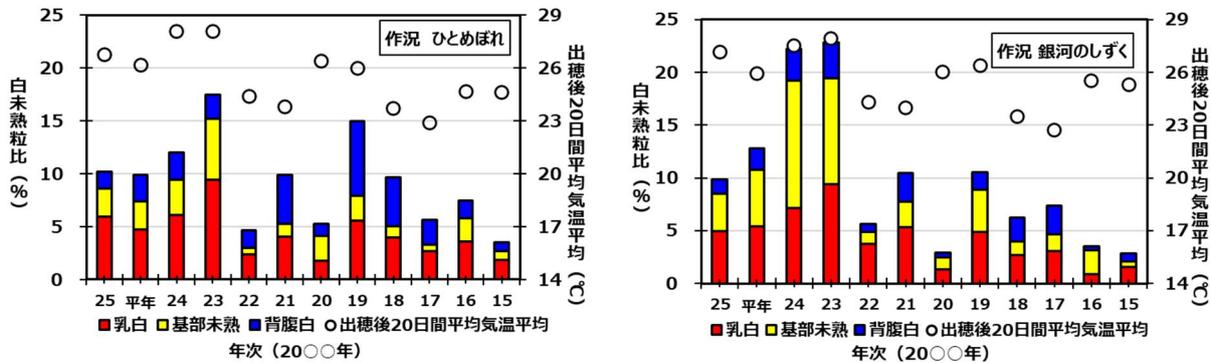
	分げつ発生数 (本/個体)			穂数 (本/個体)			有効化率 (%)	
	一次	二次以上	計	一次	二次以上	計	一次	二次以上
2025	5.3	5.4	10.7	4.4	2.3	6.7	83.8	42.1
平年	4.8	4.2	9.0	4.4	2.3	6.7	90.9	53.8

注) 平年値年次 (2013~2022)、主茎を除く分げつのみの本数

注) 極小の分げつも追跡するため、m²当本数に換算すると生育調査区のデータと一致しない

2 登熟気温と玄米品質の関係

出穂後はやや高温で経過したものの、①過去2年間と比較し、白未熟粒の発生に影響するとされる出穂後20日間の日平均気温が低かったこと、②m²収量が少なく（概略図参照）、各玄米の充実が良好に行われたことにより、白未熟粒の発生率等が低下し、整粒歩合の向上に繋がったものと推察された。



補足) 図5 白未熟粒の発生率の年次推移

注) 北上作況・ひとめぼれ・標植 (5/15 前後移植)、平年値は直近5年 (2020~2024) の平均値

補足) 表2 県内各市の出穂時期と出穂後の気象 (2023~2025)

年次	市町村名	出穂期 ¹⁾			出穂後20日間平均 ²⁾						HD_m26 ³⁾		
		(月/日)			最低気温 (°C)			平均気温 (°C)			始期~盛期~終期~		
		始期	盛期	終期	始期~	盛期~	終期~	始期~	盛期~	終期~	始期~	盛期~	終期~
2023	盛岡市	7/30	8/02	8/05	23.6	24.1	24.6	27.5	27.8	27.9	32.0	37.6	38.7
	北上市	7/29	8/02	8/04	24.2	24.7	25.0	28.0	28.0	28.1	41.3	42.3	43.1
	奥州市	7/28	7/31	8/04	24.3	24.5	25.1	28.4	28.3	28.6	50.0	47.4	52.4
	一関市	7/27	7/30	8/03	24.4	24.6	24.9	28.4	28.2	28.4	48.8	45.5	48.9
	大船渡市	7/26	7/31	8/08	24.3	24.6	24.8	27.6	27.3	27.3	33.0	26.7	27.0
	宮古市	7/30	8/03	8/07	23.7	24.0	23.9	27.2	27.3	27.2	27.2	29.3	26.2
	久慈市	7/30	8/02	8/09	22.1	22.5	22.5	26.2	26.5	26.4	15.4	18.4	18.2
	二戸市	7/30	8/01	8/03	22.1	22.3	22.8	26.0	26.1	26.3	15.4	15.4	20.5
2024	盛岡市	7/29	8/02	8/06	23.2	23.0	22.8	26.7	26.6	26.3	18.2	16.8	11.4
	北上市	7/30	8/02	8/05	23.9	23.9	23.8	27.5	27.4	27.3	30.0	28.6	26.2
	奥州市	7/29	8/01	8/04	23.8	23.7	23.9	27.8	27.7	27.7	35.9	34.3	33.4
	一関市	7/26	7/29	8/02	23.7	23.8	24.0	27.1	27.5	27.4	26.4	29.5	27.6
	大船渡市	7/26	8/01	8/08	23.2	23.4	23.5	26.1	26.1	25.8	12.7	10.9	7.9
	宮古市	7/26	7/31	8/08	22.4	22.3	22.3	24.6	24.5	24.5	1.2	1.2	4.8
	久慈市	7/25	7/30	8/08	22.0	21.9	21.6	24.7	24.6	24.4	2.6	1.2	2.7
	二戸市	7/27	7/29	8/01	21.7	21.4	21.3	24.8	24.6	24.5	0.9	0.9	0.4
2025	盛岡市	7/29	8/01	8/05	21.7	21.6	21.1	26.2	25.9	25.4	16.1	8.0	2.4
	北上市	7/29	8/03	8/06	22.9	22.5	22.3	26.8	26.6	26.4	20.9	17.2	14.7
	奥州市	7/26	7/31	8/04	22.9	22.7	22.2	27.3	27.0	26.8	29.8	25.7	20.7
	一関市	7/26	7/29	7/31	23.2	23.1	23.1	27.0	26.7	26.9	25.3	20.1	23.5
	大船渡市	7/28	8/02	8/09	22.4	22.6	22.4	26.1	26.3	26.2	10.5	15.8	15.8
	宮古市	7/26	8/02	8/07	22.1	21.3	21.3	25.3	25.1	25.2	5.0	4.8	6.2
	久慈市	7/28	7/30	8/04	19.8	19.6	18.9	24.9	24.9	24.4	1.4	0.9	0.0
	二戸市	7/25	7/27	7/30	20.1	19.6	19.2	24.9	24.8	24.5	6.0	6.0	4.3

- 1) 始期、盛期、終期：各市10%、50%、90%の水田が出穂期に達した日（各農業改良普及センター調べ）
- 2) 各気象要素は、各市のアメダスデータを用い、白未熟粒のリスクが高まるとされる、出穂後20日間の最低気温平均22°C以上、平均気温平均26°C以上の数値を着色した
- 3) HD_m26：出穂後20日間の日平均気温から26°Cを減じて積算したもので、高温の影響による品質低下リスクの評価に用いた(Ishigooka et al. 2017)。リスクは、低 (20未満)、中 (20以上40未満)、高 (40以上) に分類され、リスク中を薄赤、リスク高を赤に着色した